

令和8年度 白鷺中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語3技能
3 年	学校	157	60	58	5.3	10.5	484
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞「書くこと」と「読むこと」の正答率は大阪市を上回っているが、「話すこと・聞くこと」の正答率は下回っている。問題形式の観点から見ると、「短答式」の正答率は大阪市を上回っており、「選択式」の正答率は大阪市と同じである。一方で「記述式」の正答率は大阪市を下回っており、課題が見られた。

また、全国平均との比較では、各内容で下回っていることから、文章の内容を正確に読み取り、必要な内容を整理し、根拠を示して自分の考えを表現する力を引き続き育てる必要がある。

今後は、RST（リーディングスキルテスト：文章を正確に読み取る力を確認するテスト）の結果も活用し、生徒のつまずきを把握するとともに、読み取ったことを自分の言葉で説明する活動の充実を図る。

＜数学＞すべての領域の正答率で大阪市を上回り、特に「図形」「データ活用」は全国平均を上回った。ICTを活用して図形のイメージを捉える活動や、教科横断的な学習で図・表などを用いて考察する活動が理解を支えた可能性がある。

一方、「数と式」「関数」は全国平均を下回っており、学習内容の定着状況を詳しく確認する必要がある。

今後は、後藤や無解答の多い問題を分析し、つまずきにに応じた指導を行うとともに、式・図・表・グラフを関連付け、考え方や解決の過程を説明する活動を充実させる。

＜英語＞4技能の平均IRTスコアは、大阪市・全国平均を下回った。IRTバンドの分布では、バンド5の割合が大阪平均をわずかに上回る一方、バンド2の割合が高く、基礎的な内容の定着に課題がある生徒への支援が必要である。技能別では、「話すこと」の平均正答率が大阪市平均を上回ったが、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は下回った。特に、短い文章の要点を捉えることや、自分の考えとその理由を書くことに課題が見られた。

今後は、基本的な語彙や表現の定着を図り、短い文章から必要な情報を読み取る活動や、例文を参考に自分の考えと理由を表現する活動を段階的に取り入れる。

今後に向けて

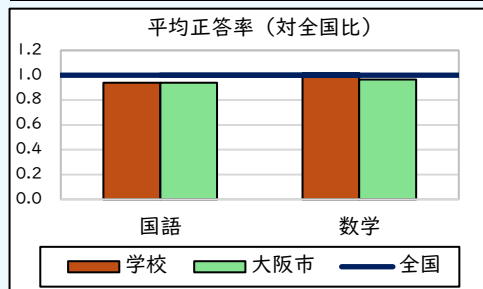
調査結果から、文章や資料の内容を正確に読み取り、根拠を示して自分の考えを表現する力を育てることが、教科を通じた重要な課題であるととらえている。各教科で、文章・図・表などから必要な情報を読み取り、仲間との対話を通して考えを深め、話したり書いたりして表現する活動を充実させる。

また、誤答や無解答の分析を通して生徒一人ひとりのつまずきを把握し、授業内の支援や補充学習につなげる。単元末の課題や生徒の記述、振り返りなどから学びの変化を確認し、教職員で共有しながら授業改善を進める。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

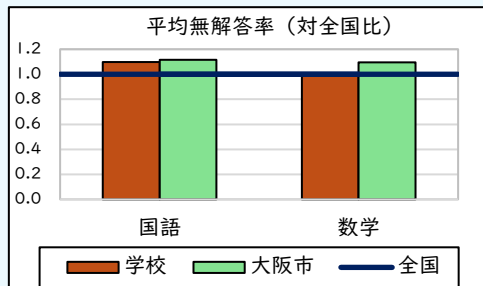
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	60	58
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



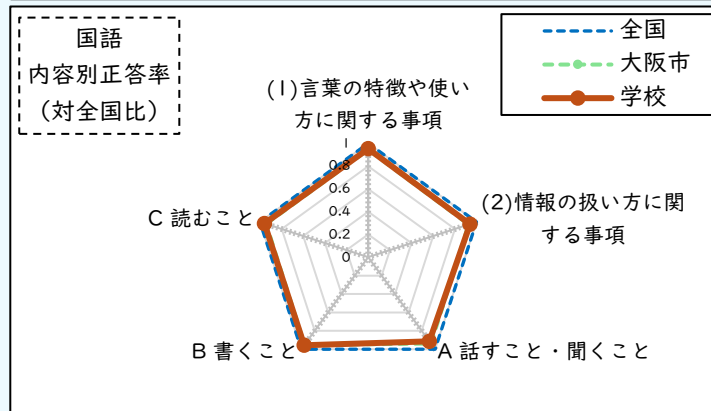
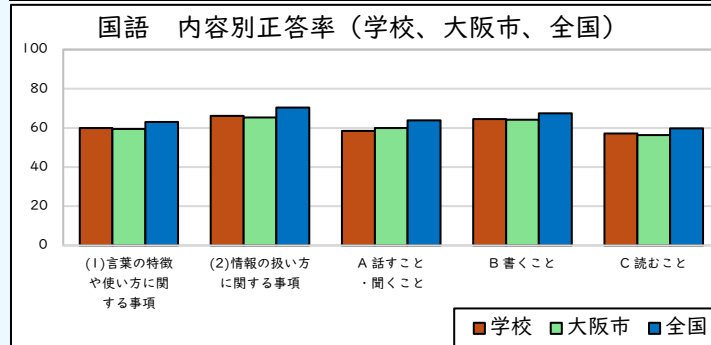
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	5.3	10.5
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



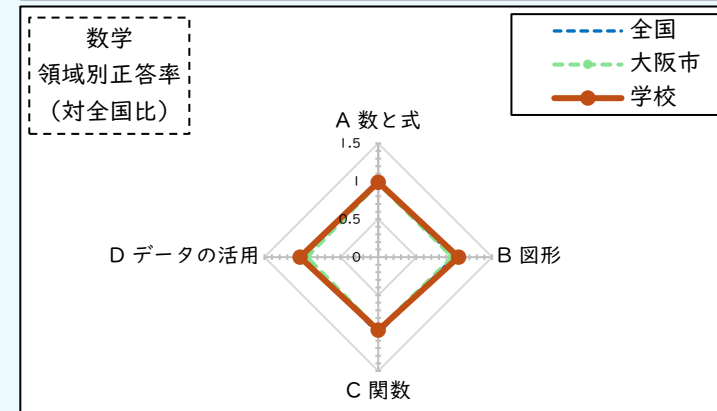
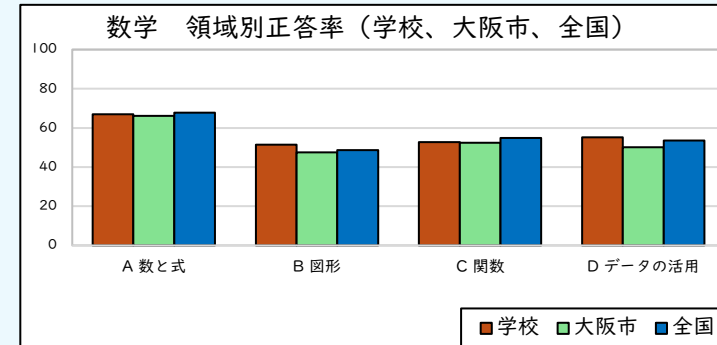
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	60.0	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	66.2	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	58.5	59.9	63.9
B 書くこと	3	64.5	64.2	67.4
C 読むこと	3	57.2	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	67.0	66.1	67.8
B 図形	4	51.5	47.6	48.7
C 関数	3	52.8	52.5	54.8
D データの活用	4	55.2	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

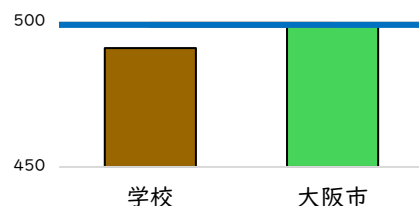
英語 平均IRTスコア

学校	491 (484)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

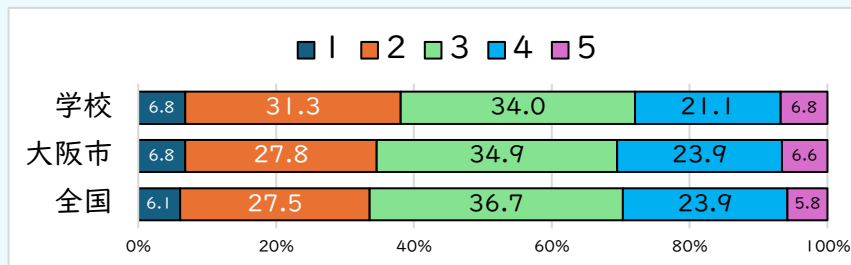
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

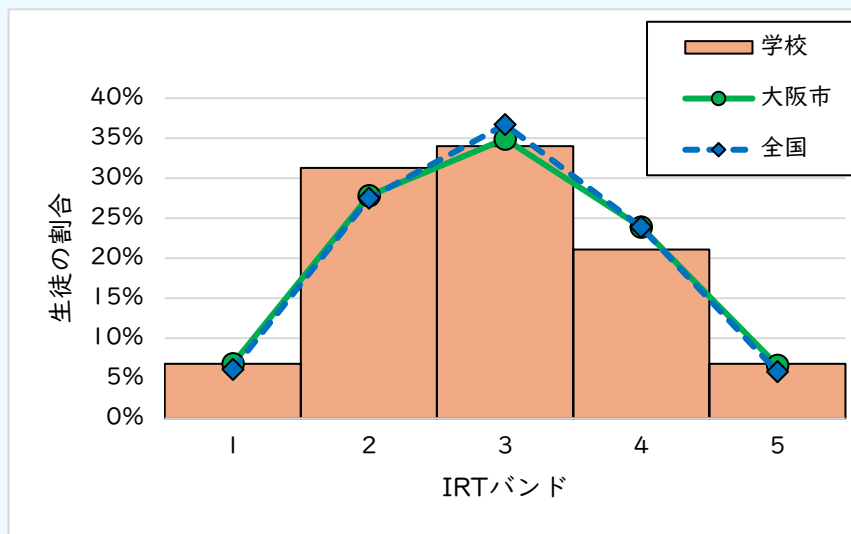
	1	2	3	4	5
学校	6.8	31.3	34.0	21.1	6.8
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



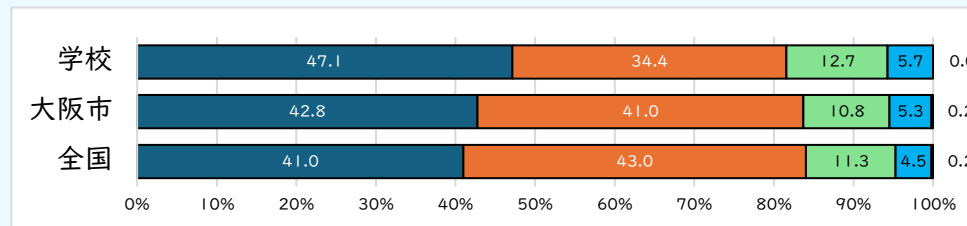
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

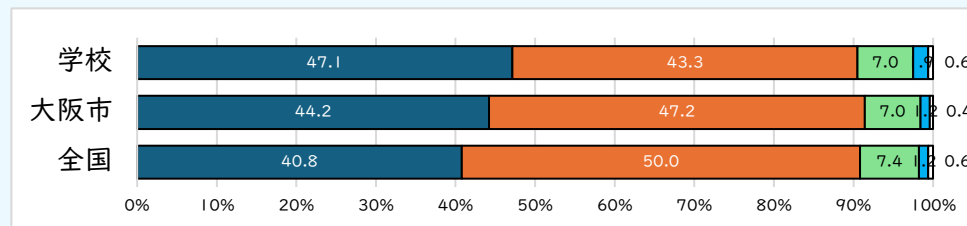
質問番号 質問事項

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



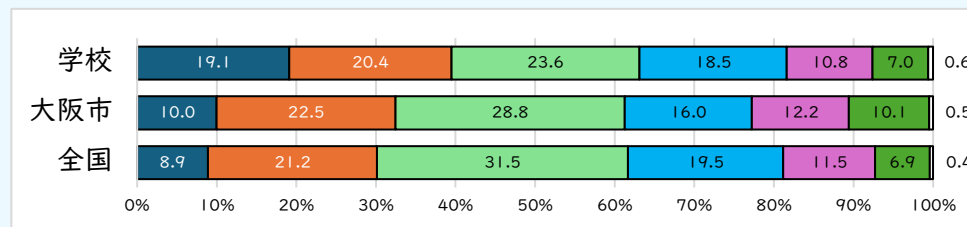
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(11)	人が困っているときは、進んで助けていますか
------	-----------------------



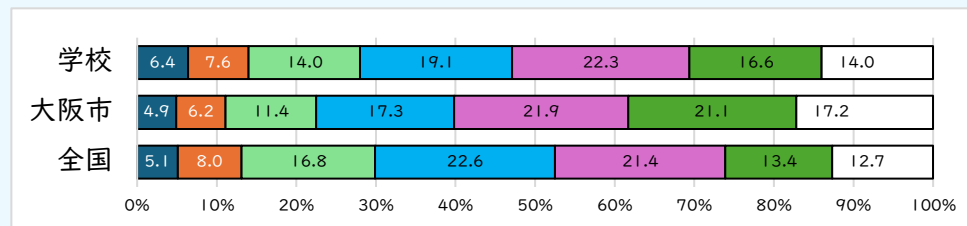
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット
------	---



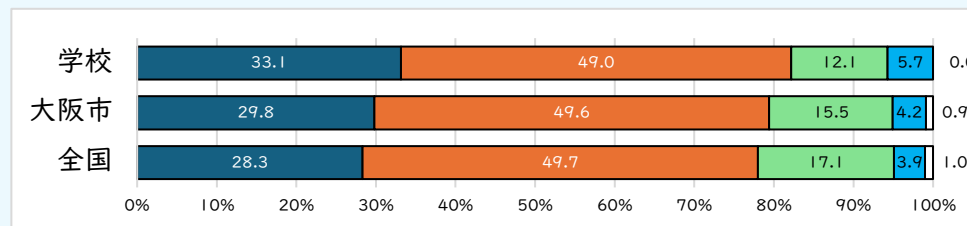
1 3時間以上
2 2時間以上、3時間より少ない
3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない
6 全くしない

(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ
------	--



1 4時間以上
2 3時間以上、4時間より少ない
3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない
5 1時間より少ない
6 全くしない

(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか
------	---



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

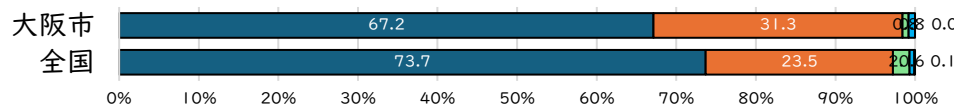
質問番号

質問事項

(13)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

【学校の回答】 1 そう思う

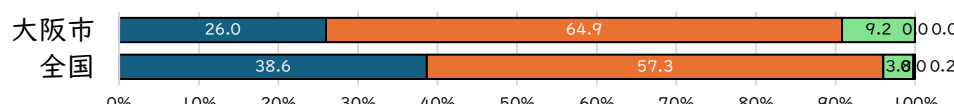


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(17)

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

【学校の回答】 1 よくしている

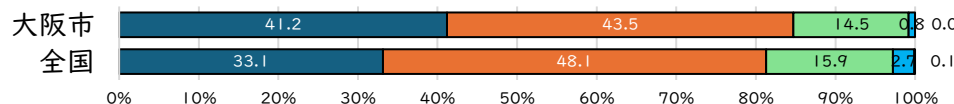


1 よくしている
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

(24)

生徒にとって、学校施設全体として、生徒が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

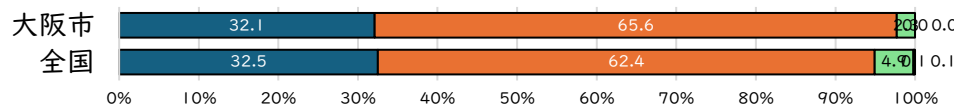


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(29)

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

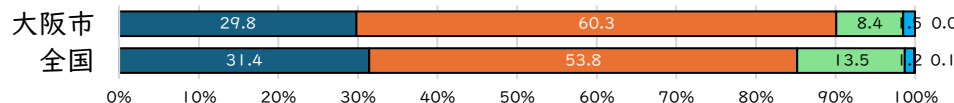


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(67)

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う



1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない